

原作：桃太郎

「桃太郎」

—初稿—

2024/03/16

石川

〈人物表〉

野上 晴香

(25)

保育士

園児たち

〈ログライン〉

保育士の野上晴香が、園児に『桃太郎』を読んで聞かせるだけの話。

〈ねらい〉

いくら桃太郎にビートがあるとはいえ、そのままなぞられるとさすがに退屈なのではないか。

1. つくし保育園（昼）

大部屋に園児が集まって、床に座っている。

園児たちの視線の先には、野上晴香（25）。椅子に座って紙芝居を持っている。

晴香 「みんな大好き桃太郎だよ〜はじまり、はじまり〜」

と、表紙をめくる。

以降、画面は紙芝居（止め絵）に固定。一場面ずつ切り替わる。

2.

紙芝居

畑に面した家。畑仕事をする二人の老人。

晴香の声 「むかしむかし、あるところにおじいさんとおばあさんがいました」

山へ向かうおじいさん。

晴香の声 「ある日、おじいさんは山へ芝刈りに」

川で洗濯するおばあさん。

晴香の声 「おばあさんは川へ洗濯に行きました」

驚くおばあさん。

晴香の声 「おばあさんは驚きます」

上から桃が見える。

晴香の声 「なんと大きな桃が流れてきたのです」

桃を持つおばあさん。

晴香の声 「おばあさんは桃を拾うと」

家でおじいさんに桃を見せるおばあさん。

晴香の声 「持って帰って、おじいさんと二人で食べようとした。いざ、中を割ってみると」

割れた桃の中に赤ん坊がいる。

晴香の声 「なんと中には人間の赤ん坊がいたのです。これにはおじいさんもおばあさんもびっくりしましたが」

顔を見合わせ、笑顔のおじいさんとおばあさん。

晴香の声 「子供がいなかった二人は、喜んでこの赤ん坊、桃太郎を育てることにしたのです」

囲炉裏を囲んで食事中的、子供時代の桃太郎、おじいさん、おばあさん。

晴香の声 「桃太郎は大切に育てられ」

青年に育った桃太郎。

晴香の声 「立派に成長しました」

痩せ細った村人たち。服もボロボロ。

晴香の声 「一方、村では村人たちが鬼によって食べ物を奪われ、

困っていました」

家の前。おじいさんを背に立つ桃太郎。腰には刀。

晴香の声 「桃太郎は、村人たちを困らせている鬼を退治しようと

考えます」

おばあさん、袋を持っている。

晴香の声 「おばあさんは旅立つ桃太郎を呼び止めます。これを持

っておいき、ときび団子を作ってくれたのです」

袋を持った桃太郎、おじいさんとおばあさんに手を

振る。

晴香の声 「きび団子と刀を持った桃太郎、おじいさんとおばあさ

んに別れを告げ、鬼退治に向かいます」

一本道を歩く桃太郎。

晴香の声 「桃太郎が歩いていると」

犬がいる。

晴香の声 「どこからか、犬が現れました。鬼退治に仲間が必要だ

と考えた桃太郎は」

桃太郎が犬にきび団子を食べさせている。

晴香の声 「きび団子を犬に分けてやりました。犬は大変喜び、桃

太郎になつきました」

桃太郎と犬が歩いている。

晴香の声 「こうして犬が仲間になりました。桃太郎、歩いている

と」

木にぶら下がった猿、桃太郎を見ている。

晴香の声 「猿が現れ、桃太郎の方を見えています」

きび団子を差し出す桃太郎。

晴香の声 「お前も仲間になるか、と桃太郎はきび団子を差し出し

ます」

食べる猿。

晴香の声 「猿は喜び」

犬と猿を引き連れ、歩く桃太郎。

晴香の声 「猿も仲間に加えた桃太郎は、再び歩き出します。しばらく歩いていると」

空を飛ぶ雉。

晴香の声 「一匹の雉が」

桃太郎の前を塞ぐ。

晴香の声 「目の前に来て道を塞いでしまいました」

袋に手を入れる桃太郎。

雉にきび団子を食べさせる。

晴香の声 「桃太郎は雉にもきび団子を分けてやり、雉も仲間にすることができました」

岸にいる桃太郎、犬、猿、雉。真剣な表情。

晴香の声 「とうとう、海辺に辿り着いた桃太郎たち。見つめる先には」

海の向こうに鬼ヶ島が見える。

晴香の声 「凶暴な鬼たちの住む島、鬼ヶ島です」

船に乗りこんだ桃太郎、犬、猿、雉。

晴香の声 「村人たちの食べ物を取り返すため、桃太郎たちは向かいます」

海の上。大きく見える鬼ヶ島。

晴香の声 「だんだん近づいてくる鬼ヶ島」

顔が引き締まる桃太郎、犬、猿、雉。

晴香の声 「桃太郎たちも真剣です」

乗り上げた船。桃太郎たちは降りている。

晴香の声 「鬼ヶ島に着いた桃太郎たち」

岩場が広がる。

晴香の声 「鬼の住む岩場です」

桃太郎は刀を構えている。

晴香の声 「桃太郎も戦いに備えます」

飛んでくる小さな石。

晴香の声 「どこからか石が飛んできて」

桃太郎の頭に命中。当たったところを押さえる。

晴香の声 「桃太郎の頭に」

石が飛んできた方向に刀を向ける桃太郎。

晴香の声「桃太郎はやる気です」

何かが飛びかかる。

晴香の声「キィ〜」

飛びかかる一匹の鬼。桃太郎は刀で受け止めている。

晴香の声「小さな鬼が飛びかかってきました。鬼はとても力が強く、桃太郎は必死です」

刀を振り下ろす桃太郎。やられる鬼。

晴香の声「ですが、桃太郎も負けません。なんとか一匹、退治しました」

犬が何かに吠えている。

晴香の声「ワンワン。お伴の犬が吠えています。どうしたのですか」

岩場の方から、鬼がぞろぞろと出てくる。鬼は余裕そうな表情。

晴香の声「鬼の群れです。さっきの戦いを見ていたのでしょうか」

猿と雉も、何かに向かって吠えている。

晴香の声「こっちも吠えています。何があったのでしょうか」

猿と雉の先にも、やってきた鬼たち。

晴香の声「また、鬼の群れです」

鬼に取り囲まれる桃太郎たち。

晴香の声「桃太郎は鬼に取り囲まれてしまいました」

表情に余裕のなくなる桃太郎。

晴香の声「この人数相手では負けてしまうかもしれない、と弱気になる桃太郎ですが」

桃太郎の前に出る犬、猿、雉。やる気である。

晴香の声「お伴の三匹はやる気です」

顔に自信の戻る桃太郎。

晴香の声「桃太郎は勇気づけられます」

桃太郎たちと鬼が乱闘。

晴香の声「桃太郎と三匹のお伴は精一杯戦いました」

倒れている鬼。桃太郎たちが残っている。

晴香の声「そしてとうとう、すべての鬼を倒したのです」

鬼の巣。食べ物と宝物を見つける桃太郎たち。

晴香の声「奪われた食べ物、そして宝物を見つけた桃太郎たち」

食べ物と宝物に囲まれて、喜ぶ村人たち。それを見
ている桃太郎、おじいさん、おばあさん。

晴香の声 「村には平和が訪れましたとき。おしまい」

画面、暗転。

(終わり)